

01133 令和7年度 第2回 総合教育会議 会議録

開催日時 令和8年3月26日(木) 午後3時30分から午後4時40分

開催場所 美祢市役所本庁本館3階 301号会議室

出席者

篠田 洋司	市長
南 順子	教育長
金子 明美	教育長職務代理者
松本 孝志	教育委員
井上 敏雄	教育委員
谷岡 奈美子	教育委員

6人

欠席者

なし

出席教育委員会事務局職員

千々松雅幸	事務局長兼生涯学習スポーツ推進課長
田中 美香	〃 教育総務課長
中島 幹晃	〃 学校教育課長
神田 高宏	〃 文化財保護課長兼世界ジオパーク推進課長
渡壁 誠	〃 学校教育課主幹
倉増 裕	〃 教育総務課総務班長

6人

(午後3時30分)

1 開会

事務局長 千々松 雅幸

それでは、只今から令和7年度第2回美祢市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、篠田市長がご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

市長 篠田 洋司

改めまして、皆さんこんにちは。

教育委員の皆様方には、お忙しい中、こうしてご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

また、平素より本市の教育行政各般にわたって、多大なご支援やご尽力、またお力添えをいただいておりますことを心から感謝申し上げるところでございます。

この総合教育会議は、ご案内のとおり、地方教育行政における組織と運営に関する法律の改正に基づいて、総合教育会議を開催するということになりました。

首長としては、予算権限であるとか、そういった重要な役割を担っている一方、実際の運営は、教育長初め教育委員の皆様方に委ねているという状況でございます。

それを一つのベクトルに合わせて、力を合わせて、いかに国として教育が大事であるからこそ、ベクトルを合わせようという、この会議でございます。

せっかくの会議でございますので、議題としては2点ほど準備させていただいておりますが、ご忌憚ないご意見をお願いいたしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局長 千々松 雅幸

この総合教育会議は、市長、教育長、教育委員によって構成をされております。

今後の議事進行については、会議の主催者である市長にお願いをいたします。よろしくをお願いいたします。

3 議事

(1) 美祢市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

市長 篠田 洋司

それでは、定めによりまして議長を務めさせていただきます。

以後着座にて進めさせていただきます。

よろしくをお願いいたします。

それでは、早速、議事に入ります。

最初に、「美祢市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」についてを議題といたします。

まず、事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課主幹 渡壁 誠

では、「美祢市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について、ご説明いたします。

まず、お配りしている資料でございますが、計画の冊子、それから、資料と

して法律の概要、別添1というもの、それから、首長部局へのチラシ、両面印刷のものでございます。チラシが2枚ございます。

まず、3つ目のチラシの方をご覧ください。

令和7年6月11日に、給特法等改正法が成立いたしました。

この法改正では、すべての子供たちへのよりよい教育の実現を目指し、教師が学びの専門職として、子供に全力で向き合えるよう、国を挙げて働き方改革を徹底して進めることとされました。

この改革において、国は制度改正や自治体への伴走支援、環境整備を行い、教育委員会は現状の見える化や学校への伴走支援を担います。

学校は、業務の精選や見直しを進め、地域や保護者の皆様には、学校運営協議会等を通じて学校運営への参画をお願いします。

さらに、首長部局におかれましても、総合教育会議を通じた連携協働が求められています。

今回の法改正等を踏まえ、教育委員会には、教師の服務監督権者として、業務量管理・健康確保措置実施計画の策定、公表、実行が求められています。

これについては、2枚目のチラシに書いてあるところでございます。

また、本計画を総合教育会議へ報告することも義務づけられています。

本計画は、これらを踏まえ、教師の健康を守る安全配慮義務を果たすとともに、教育職員の業務量管理と健康確保の推進を目的として策定したものです。

それでは、計画の中の方に入って参ります。

まず、開いていただきまして2ページの中段をご覧ください。

本市の現状でございます。

本市の現状では、小学校ではこれまでの取り組みの成果が見られる一方、中学校では、教職員の43.4%が45時間の時間外在校等時間を超えております。

依然として深刻な状況にあります。

そこで、本計画では2つの目標を設定しております。

3ページをご覧ください。

一つ目が、時間外在校等時間に関する目標として月45時間、年360時間を超える教員をゼロ%に近づけることを目指します。

指標として、教員の1ヶ月当たりの時間外在校等時間の平均を30時間以内にすることを目指します。

これは、県の目標と同じものになります。

二つ目、健康と働きがいに関する目標として、ストレスチェックにおける高ストレス者の割合を0%に近づけることを目指します。

文科省は、令和11年に達成するように示していますので、本計画では令和8年度から10年度までの3年間での達成を目指して計画しています。

3番以降、3ページから8ページまで示しております。具体的な取り組み内容については、今回新しいものを導入するというのではなく、本市がこれまで積み上げてきた施策を国の指針でもある業務の3分類に沿って、改めて体系的

に整理したものです。

これまで進めてきましたICカードによる勤務時間管理や部活動の地域展開、教員業務支援員の配置といった取組をより実行性の高いものとしていきます。

また、事務負担軽減のためのICT活用や、今年度末から実施した学年末休業の2日間拡大による業務時間の確保など、既存の工夫を継続発展させることで目標達成に向けて取組を進めます。

今後本計画を基に、4月に新年度の各学校の学校運営協議会において基本的な方針に本内容を盛り込み、承認を得ます。

これについて、今後のところ、一番最後の進行管理等のところを書いてあります。

各学校の取り組み状況については、今年度中にすべての学校がホームページ等で周知する予定です。

市の取り組みの進捗状況については、毎年、総合教育会議でご報告いたします。

簡単ですが、説明は以上になります。

市長 篠田 洋司

ただいま事務局から説明がございました。

委員の皆様から、ご質問やご意見がありましたらお願いしたいと思います。

質問させていただきますと、6ページの機能、部活動指導員、学校部活動の指導の充実、教員の負担軽減のため、部活動指導員を配置しますっていうのはもう、大丈夫なのですね。

学校教育課長 中島 幹晃

来年度、もう1年は部活動が一部ですけれども、残っておりますので、その2種目については、部活動指導員を確保している状況でございます。

市長 篠田 洋司

それと5ページの公務におけるICT活用推進ってあるのですが、これは予定どおり進んでいますか。

学校教育課主幹 渡壁 誠

予定どおり進んでおります。

各教員には校務用パソコンがすべて配布されておりますし、タブレットについても、今年度更新が済んでおりまして、新しいタブレットが子供用、それから教師用、それから教師以外の職員にも配布が済んでおります。

あとソフトについても、来年度に向けて新しいものも入れておりまして、ドリル系それから子供の学習支援等々、様々なものを今導入しております。

市長 篠田 洋司

その中で、情報伝達手段の簡素化してあるのですけれど、これ情報伝達手段の何かソフトがあるのですか。

学校教育課主幹 渡壁 誠

教員はここに書いてあるTeamsというものを主に使って、今まで、例えば毎週1回、時間を取って教員の連絡会をして、口頭で伝えていたというものを、このTeams上にアップして、いつでも周知ができるということに取り組んでおります。

あと、全県で校務支援ツール、同じものが入っておりますので、情報伝達だけではなくて、出席管理それから通知表の作成等も県内全部同じ形で、今、作成ができるようになっております。

市長 篠田 洋司

職員会議がなくなるとかそういうことじゃないのでしょうか。

学校教育課主幹 渡壁 誠

職員会議が行われるのですけれども、ペーパーレスはこれによって随分進んでいるところがありますので、そのように活用しております。

市長 篠田 洋司

こういう時代だからこそですね、逆にフェイストゥフェイスでよくコミュニケーションを取るっていう、ちょっと工夫も必要かなというふうに思いますので、やっぱり行政でもそうなのですけれど、コミュニケーション不足という部分が時々あるので、やはり、せつかく時間がもし空けば、やっぱり、しっかりコミュニケーションをとっていくということが、子供たちの教育の方にまたつなげられると思いますので、その方の配慮をお願いしたいというふうに思います。

学校教育課主幹 渡壁 誠

ありがとうございます。

今まで、事務連絡等で時間をとっていたものを簡素化して、今おっしゃったように教育に関する内容でしっかりコミュニケーションがとれるように、学校にも指導していきたいと思います。

ありがとうございます。

市長 篠田 洋司

それと総労働時間数を今後、コントロールしていかないといけませんよね。そうしたときに、もう思い切って長期休暇のときに、学校の2日ぐらい取る

とか言われていましたけれど、思い切って取られたらどうなのですかね。

年次有給休暇も5日を残せば、あと計画年休が認められていますので、そういう思い切った取り組みも、必要なのではなからうかと思えますけれど。

学校教育課主幹 渡壁 誠

休暇についてですが、ちょっと後ろの方になるのですけれども。

7ページの真ん中あたりにあるのですけれども、学校閉庁日というものを設定しております。

令和7年度は、盆前の1週間、土日も含めた1週間分を、学校閉庁日として年休取得等を推奨して、学校には当番を置かないということで進めております。

あと冬休み、27日、28日もカレンダーによるのですけれども、ここも閉庁日に毎年しております。

市長 篠田 洋司

あと時差があるじゃないですか。

これもルール化されたらどうなのですかね。

長期休暇のときにすることができるという感じですよ。

もう実際、学校に出られる日はもう時差でやられるとか。

もう改革もどんどんどんどん、進められるところは進めていただいて、その方がやっぱり、いいのではないかなというふうに思って、例えば年休付与って、県の方がされるのですけれども、教職員の管理っていうのは。

学校教育課主幹 渡壁 誠

県の方から年休は付与されます。

市長 篠田 洋司

例えば、もう思い切って研修休暇みたいな感じでも、どんなでしょうか、逆に県の方にも問い合わせ、結構、学校の先生方って昔は時間が、昔、田中角栄総理の前は行政職給料表で多分調整手当についていたと思うのですけれど、時間外勤務の概念が難しいということで教育職給料表ができたという背景を踏まえれば、あのときに、夏休みってそんなに厳しくなかったと思うのですね。

先生方が自己研鑽のためとか、それをあえて行政職に合わせようとするからもう無理だっていうのもあろうかと思えますので、もう思い切って研修休暇みたいなものを、県の方にも、私の方からもちょっとそれは思い切って言いたいと思えますけれど。

もうそういうのをされて、そうしたら先生方の質が研修に充てられる時間があれば、それは確実に児童生徒にバックされるわけですから、そういうのもちょっと、工夫が必要かなというふうに思っておりますので、こちらはこちらでできることはやっていますので、教育委員会サイドもできることはやっ

ただきたいなと思います。

そしたら、先生が集まってくるのではないかなと思うのですよね。

働きやすい美祢市で働きやすいっていうことになればと思いますので。

学校教育課主幹 渡壁 誠

ありがとうございます。

今後しっかり検討して参りたいと思います。

ありがとうございます。

市長 篠田 洋司

議題の1について、委員の皆様から何か。

そろそろ、いや、皆さんにいっぱい意見を言っていただければ、はい。

変えること、言いにくいことは後でいいと思いますので。

はい、結構です。せっかくですから。

井上委員さん、何かこの部分ですみません。

教育委員 井上 敏雄

いろいろ事前の会議の中で、この説明を受けているのですけれども、こういう内容をずっと見ていくと、すごく理想的なことがずっと書いてあるのですよね。

当初の3ページに書いてありますけれども、目標期間として3年間ということで、まずはこの目標に向けて教育委員会としては実践していくと思いますし、大事なものは、中で適時見直しというか、そのできる項目と、ここは、なかなか効果がえられないので改善すべき項目が、多分あの中にいろいろあろうかと思うのですよ。見ていて、できるものとできないものと。

ちょっと理想的すぎるものとかっていうのがあるので、それを適宜見直すってことは、すごく大事なんじゃないかなと思って聞いておりますし、了解はしております。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

これ、学期ごとに進捗管理するのですか。

それとも、1年間ごとですか。

学校教育課主幹 渡壁 誠

一応毎月です。業務量については把握をしております。

見直しについては、結果を基に定期的に1年に1回は必ず見直しを行ってとい

うふうに考えております。

市長 篠田 洋司

金子委員さんから、この件について何かございますか。この議題について。

教育長職務代理者 金子 明美

8ページのメンタルヘルス対策事業の実施というところなのですが、なかなか日々の業務、あるいは子供達、そして、保護者との接触ということで、ストレスが多いことが多いかと思うのですが、やはり風通しのよい職場づくり、それから、やはり管理職が教職員面談とか、日頃の職員の様子等の細やかな観察、それから、在校時間が8時間という線を超えた場合には、やはり医師による面接指導を進めるとか、いろいろなことをしながら、職員のメンタルヘルスを守っていくことが大切ではないかなというふうに思いました。

以上です。

市長 篠田 洋司

今の金子委員さんのご発言の80時間を超えた教職に、医師による面接指導実施するとあるのですが、実際に該当がするのが何%ありますか。

学校教育課長 中島 幹晃

現状につきましては、今年度、令和7年度についてはございませんでした。

昨年1件、医師による面接、相談指導というのを実施したところでございます。

ただ、本人があまり積極的ではなくても、校長を通じて、積極的に声掛けをしていきたいと考えているところです。

市長 篠田 洋司

はい、わかりました。

他に何かご質問ございませんか。

よろしいですか。

この件につきましては、この本計画の策定に伴い、今後、各学校の計画作成などの取り組みが進められ、取り組みの結果は一年ごとに総合教育会議でも報告されるということでございますので、また、ご報告をお願いしたいと思います。

それでは、議題1号は終わりたいと思いますが、よろしいですか。

《全員了承》

(2) Mine 秋吉台ジオパークを活用した教育と地域の振興について

市長 篠田 洋司

それでは、議題の2番目に移らせていただきます。

「Mine秋吉台ジオパークを活用した教育と地域振興について」を議題といたします。

すでにご案内かと思いますが、来月4月23日のパリで開催されますユネスコの国際会議で、順調にいけば、Mine秋吉台ジオパークが国内で11番目のユネスコ世界ジオパークの認定を受けることとなります。

本市は、これまでMine秋吉台ジオパークを活用した保全、また、教育に活用してきたわけでございます。

今後、教育と地域の振興について、委員の皆様方からご意見をお聞かせいただければというふうに思います。

それでは、南教育長からよろしくお願ひしたいと思ひます。

教育長 南 順子

今、市長様からお話がありましたように、この度、Mine秋吉台ジオパークが4月にユネスコ世界ジオパークに認定される見込みであるということは、美祢市にとって本当に歴史的な節目であり、今後の教育や地域振興、ひいては持続可能な地域社会の実現に向けた大きな原動力になるのは、言うまでもございません。

是非この機会に、ジオパークが持つ自然や文化への理解をより深め、地域の魅力を再発見し、次世代を担う子供たちへのよりよい教育の提供を目指していきたいと考えております。

そこで、初めに私の方から意見を述べさせていただきます。

1点目は、子供たちを核とした情報発信の工夫です。

この度、Mine秋吉台ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定されるということは、特に2つの大きな意味を持つと言われております。

一つ目は、美祢市には秋吉台、秋芳洞や大嶺炭田、長登銅山跡等、未来に残していくべき国際的に価値のある地質、地形遺産があることが、国際的な基準で認められたということ。

2つ目は、現在50カ国、229地域がユネスコ世界ジオパークに認定されていますが、この度Mine秋吉台ジオパークがこのネットワークに加盟し、ネットワークを活用することで、美祢市民はもちろんのこと、特に美祢市の児童生徒が広い視野で世界の多様性を学び、多様性を認める心の素地を養うとともに、グローバルな人材育成につなげていく絶好の機会になるということです。

これらのことをもっと多くの美祢市民に周知し、さらなる地域愛の醸成、いわゆるシビックプライドにもつなげていきたいと考えております。

秋芳まちづくりセンターの図書館の入口にはジオのコーナーが設置されており、また、いろいろな会合で話をする機会があれば、このユネスコ世界ジオパークのことについても紹介をしております。

それぞれに取り組んでおりますけれども、もっと情報発信や周知方法の工夫を図ることが必要ではないかと考えております。

その中核を美祢市の子供たち一人一人が担えるよう、子供たちが生まれ育った地域のこと、大地の成り立ちやそれに関連した人々の経済的、文化的、芸術的な営み、先人の知恵や努力等について、子供たちが五感を通して感じた感動体験や、主体的、対話的、協働的に学んだジオ学習の成果を、子供たち自身が自分の言葉で、学校はもちろんのこと、家庭で家族に語ったり、或いは地域の人に様々な機会を通じて伝えたりすることで、ジオパーク学習での学びを子供たち自ら自発的に、主体的に積極的に情報発信をし、一人でも多くの美祢市民の理解や協力がえられるように働きかけていきたいと考えております。

そのことは、子供たちにとっても自分の学びを深めたり、広げたり、或いは新たな発見にも、繋がってくると思います。

そこで、まずは子供たちが生まれ育った美祢市の地質、地形遺産の素晴らしさをしっかり、五感を通して実感できるよう、国の特別天然記念物である秋芳洞や秋吉台は小中9年間のうちに、最低どの子も小学校で1回か2回、中学校でも1回、また、ジオガイドさんの専門的な説明を聞きながら、その素晴らしさを堪能できるよう、また、大嶺炭田、長登銅山跡についても、9年間のうち最低1回は現地を訪れ、地域の方の説明を聞きながら学べるよう、各学校のカリキュラムにしっかりと位置付けたいと考えております。

2点目は、これまでの活動記録の保存と整理と活用についてです。

これからも、郷土を愛する強い誇りを持ち、現状や未来を少しでもよりよくしていこうとするマインドを持った子供たちを、ジオパーク活動を通して育成していくために、また、ジオパーク活動が持続的な活動としてさらに充実発展しながら継続していくためには、小中9年間を通した系統的、持続的なジオパーク学習の記録の保存と活用が重要になってくると思います。

特に、学校現場においては3年程度で教職員の異動があります。

せっかくそれぞれの学校で地域や関係機関と連携した特色あるジオ学習に取り組んでも、教職員の異動によってこれまでの、積み重ねられた貴重な実践やその記録が失われていくことは避けなくてはなりません。

むしろジオパーク学習の目的に沿って、毎年子供たちの成長とともにブラッシュアップしていくことが必要だと思えます。

平成28年度から29年度、30年度はこのように美祢市ジオ学習実践事例集が作成され、市内各小中学校の地域のジオ資源やジオパーク学習のねらい、ジオ学習の年間実践事例また教育委員会主催の新規採用教職員や市内にあたる新た

に転入した職員対象の市内フィールドワーク研修等がまとめられていました。

その後、令和5年度にもいろいろ新しく赴任した教員のためのジオパーク学習の展開や校外学習モデルコース、またはYouTube動画の一覧を紹介した冊子も作成されています。

現在では、ジオパーク学習は小中学校だけでなく幼保小中高等学校まで広がっております。

ジオパーク学習は、地球の長年の活動の結果である大地やその上に成り立つ私たちの暮らしを知り、守り、そして、次世代につなげる意識を育むことを目的としていますので、この度、ユネスコ世界ジオパークに認定されるのを機に、これまでの活動の記録の整理保存に取り組むとともに、これからの新たな魅力あるジオパーク学習や活動に繋がるよう、実践事例や活動記録を体系化し、今後の教育活動に活用していきたいと考えております。

以上でございます。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

もうどんどんご意見を、金子委員さん、すみません。

教育長職務代理者 金子 明美

秋吉台科学博物館は、カルスト台地、秋吉台の成り立ちや動物の形成、そこで生きる生き物、それから地域の人々が資源を利用、保護してきた歴史がわかりやすく解説され、ジオパーク活動の調査研究活動の中核施設で、学術的にも価値のある施設です。

また、美祢市の宝である子供たちにとっても、他の地域にはない貴重な学習の素材が集まった場所だと考えます。

さらに、散策を繋いで近くに展望台やカルスターがあり、観光面でも貴重な施設と考えます。

秋吉台科学博物館の充実は、交流人口の増加にも繋がると考えます。

しかしながら、創立66周年を迎え、かなり老朽化が進んでおります。

是非、ふさわしい新たな博物館の建設をお願いできたらと考えます。

併せまして、秋吉台周辺には現在使われていない古い建物の廃墟がいくつか残っており、残念なことに景観を損なっているように感じます。

秋吉台にこられた観光客の方が秋吉台の魅力、素晴らしさを存分に感じていただけるように、是非、整備をよろしく願いいたします。

環境美化に取り組むことで、リピーターも生まれ、地域活性化にも繋がると考えます。

以上でございます。

市長 篠田 洋司

やはり、先生にまず知っていただくという取り組みは、非常に必要だろうと思います。

教材もその都度その都度、JGNの方向性であるとか、また教材も変わってくるというふうに思います。

今の世論調査で日本に何を求めるかっていうと、やはり、まずは平和というのが一番多いのですけれど、3番目ぐらいに49%ぐらいの国民が、自然の保全とか日本の景観の保全、特に自然の保全、ものすごい勢いでやっぱり生物多様性も失われていますので、それを保全して欲しいというのが、多くの国民の意見です。でも、日本のよさを日本人が一番知らないっていうふうに、もう一方で言われておりますので、やはり我々が今、ジオパーク活動をやっているっていうのは特別に新しいことを実施しているのではなくて、やはり、我々の先輩とか先人が本当に守ってきていただいた活動を、次世代に繋げていこうという活動ですので、それをまた多くの人に知っていただく、それによって、地域の持続性、持続可能性を高めていこう、また、この自然を多くの人にも協力をいただきながら守っていこうという仕組みであろうと思いますので、その辺りは、新しく着任された先生方にもしっかりとジオ教育を、まずはこちらから、この取り組みについては価値とか、そういうことをお伝えしていただいて、それをまた児童生徒にきちんと、教育といたたらなにか難しいかもしれませんが、それをわかりやすく伝えていただくことに協力をいただければというふうに思います。ジオパーク推進課が、やはり教育委員会の所管にあるというのは、保全と教育というのが非常に大事だという観点からです。

それを飛び越えて観光振興ということはありませんというふうに思っておりますので、引き続き、やはりきちんとした正しいことを、伝えよう、人としても正しいことを伝えよう。それがやっぱり世界とも繋がっていこうという取り組みですので、本当にそれをベースに、お願いしたいというふうに思います。

あと次、金子委員さんの言われたことについて、ちょっと説明をさせていただきます。

確かに景観というのは、非常に大事でございます。

ちょっと前後しますけれど、展望台については、国の交付金とかを活用しながら展望台改修をいたします。

あわせて、もう内示を受けましたので支障木、秋吉台上の支障木とか、それについても伐採をするという、これ自然保護協会とも連携しながらやっていこうということで、国からも内示を受けております。

あと秋吉台上の景観を阻害する廃墟でございます。

これについては、どうかしたいかというのは、思いは一緒ですし、やっとなら芳洞商店街の旧鬼笑亭っていうのは、20年から30年の案件だったと思いますけ

れど、これは国の国土交通省の補助事業を活用して、やっとそれが認められて地権者の合意を経て、やっと撤去できたという案件です。

そのように、地権者の了解とか、あと個人所有とかがいろいろあって、それがちょっとできにくいってということと、個人所有の建物に、一般財源、いわゆる税金を使うことの可否っていうのも併せてやっていかなければなりませんし、何よりもどうしても単市でやるというより、国の補助金を活用しながら今、やっているというのが状況でございます。こちらとしても何とかしたいっていうのは、十分承知しておりますので、できることから、加速的には進めたいということで、今、国の支援を活用しながら、順次やっているところでございます。

あと博物館の建設でございます。

これは、本当にずっとの案件です。

一応台上に造るということで取りまとめて、今、展示は職員が工夫して展示をリニューアルしながら本当によくやってくれていると思いますけれど。

担当から何かありますか。どうぞ。

文化財保護課長兼世界ジオパーク推進課長 神田 高宏

場所については、博物館の建設基本構想策定委員会の中で、検討しておりますが、確定はまだできておりません。

市長 篠田 洋司

どうかしたいというのは山々ですが、ちょっと難しいのが、博物館と昔図書館の補助があったのですが、それが平成9年で終わっています。博物館とか、こういう、図書館というのは、基本的に過疎債という有利な起債があるのですが、それが使えない。図書館は国庫補助の対象になったから、今建設を準備しているのですが、博物館はなかなか補助の対象にならないということで、こちらとしては、今そういう国の支援とかをずっと絶えず探しているところです。老朽化というのは、非常にこちらでも危惧しているところですので、これは、国の支援とか県の支援とかを交渉しながら、進めていきたいというふうに思います。

交付金は、ジオも凄く絡んできます。何か補足があったら、どうぞ。

文化財保護課長兼世界ジオパーク推進課長 神田 高宏

博物館の建設自体ではないのですが、館内の展示更新につきましては、国の交付金を活用しながら、令和4年度から順次更新をしております。

来年度につきましても、秋吉台の古生物を国の交付金を使って、展示更新する予定としております。

以上です。

市長 篠田 洋司

もう一つ向こう側に、グランドホテルがあると思うのですが、もう民間の一般の人が買われたのですよね。

当時買われて、こうしたいっていうのがあったのですが、特別天然記念物でなかなか加工できないということで、ああいう状態になっているということです。こちらもちっと手がつかないっていうのが、今の実情です。

ありがとうございます。

それでは、松本委員さんお願いします。

教育委員 松本 孝志

まず1点目は、もういろいろなお話の中で関連するのですが、今、学校の方では、体験的なジオパーク学習というのを実際に取り組んでいらっしゃいます。

でも、どの地域に住んでいる子供たちにも、このMine秋吉台ジオパークについてしっかり理解してもらうためには、やはり、基本的なジオパークについての学習をすることが必要なんじゃないかなというふうに思っています。

例えば、そもそもジオパークというのは何か、Mine秋吉台ジオパークにはどんな価値があるのか、ジオパーク活動とはどんな活動なのか、現在どんなジオパーク活動を行っているのか。美祿市内のジオサイドにはどんなところがあるのか、Mine秋吉台のジオパークをどのように守っているのか等ですね。

これを子供でもわかる内容の言葉で、学習教材といいますか、学習プログラムを作って学校に提供してみたらどうだろうか。

そういうのを勉強した上で、いろいろな体験的な活動をする、本当に子供たちに身についてくるのではないかなというふうに思っています。

あわせて、子供にわかりやすいものをつくるということが、誰に対しても、ジオパークを分かりやすく説明をするパンフレットとか、そういう資料の作成にも繋がっていくのではないかと。

いろいろな資料を見ても、かなり難しい言葉で、同じような表現で書いてあるので、なかなか一般の方に伝わらないのかなという思いがあります。

そういうプログラムを是非作ってみたらどうかということ、子供たちにはMine秋吉台ジオパークの自由研究コンテストとかですね、そういう取り組みをやってみて、子供たちに調べさせて、学んだことを活用して調べてみたりして発表するとか、そういう機会を設けたら子供たちに、とても心に残るようなものができるのではないだろうかというふうに思っています。

それが1点です。

それから、2点目は、さっき金子委員さんが言われたことで、やっぱり景観の保護のことなのですが、秋吉台のこと、台上の建物のことは今お話をお伺いしました。

秋芳洞の入口のところもすごく気にはなっていたのですが、それも、ものすごく今進んで綺麗になっているなというふうに思いました。

もう一つ気になっているのが、秋芳洞のコケなのですよね。あそこがやっぱりジオパークというところに、目指してこられたときに、ああいうものがあると、ちょっとやっぱりどうだろうかと、環境保全というのが大変重要なことでもあるので、あれをどうにかできないものだろうかということ。

それから、大正洞のところにありますエコミュージアムなのですが、これを是非ジオパークを学ぶ施設としても活用できるように、有効活用してはどうかというふうに思っています。

それから、もう一つすみません。

3点目が、実は美祢市の退職校長会の方では、もう大分前からですね、年1回、美祢市の隠れジオサイトめぐりという研修をやっています。

これは、美東町の小田村先生が講師をされて、校長会の研修部で開催されているのですけれど、これが地域を変えて行われています。

毎回素晴らしい資料を用意されており、メンバーにはとても人気のある研修になっています。

一度体験をすると、この地域はこういうところがあるのかっていうすごく魅力を感じる研修なのです。

他にもひょっとしたらこういう活動をしているところがあるかもしれません。

是非、こういう資料等を収集していただいて、それを活用して、公民館活動であるとか、観光とか、学校教育とかに役立ててみてはどうだろうかというふうに思っております。

以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

プログラムは、毎年おっしゃるように、微妙に変えながら、パンフレットはできるけれどやっぱり難しいっていう部分は何かありますか。

文化財保護課長兼世界ジオパーク推進課長 神田 高宏

わかりやすい教材を作ったらいかがかというお話がメインだったかと思えます。

そういった教材は、まだジオパークの方でも作成できておりません。

そのような教材があると、学校の先生方も、伝えたくなる、伝えやすくなりますし、生徒さんたちにも伝わりやすくなるっていうメリットが凄くあるなと思いました。

そのような教材を生かすことによって体験メニューがまた生きてくる。

その教材のノウハウがわかりやすいパンフレットに繋がるという、いい流れだになっていうふうに感じました。

今、ジオパークの方では学年にあわせた体験プログラム、冊子は作っているのですけれど、授業で使えるような教材はありませんので、検討も必要かと思っています。

市長 篠田 洋司

冊子を作っていますよね、ジオパークって何とかね。

それが子供たちにとって、こちらが伝えたいことと、子供たちが知りたいことがマッチするかっていう事ですね。

伝えたいというのはよくわかるけれど、ちょっとそれを考えさせていけないか、ジオパーク推進協議会の会長としても重く受けとめさせていただきます。

やっぱり分かりやすいというのは、動画でもちょっと何か、今頃もう子供たちもYouTubeを見る時代ですから。

貴重なご意見をありがとうございます。

2点目のエコミュージアム、あそこに何かありますか。

文化財保護課長兼世界ジオパーク推進課長 神田 高宏

エコミュージアムの方も、今年度から県の主導で展示改修を進めております。

市も、文化財保護課、ジオパーク推進課が県と一緒に展示内容等の検討を進めております。

来年度には、完成するのではないかと考えております。

市長 篠田 洋司

展示も大事でなんですけれど、まずあそこにファーストタッチ、まず駐車場停めてあそこに行ってもらうっていう工夫を、我々はしていかなければいけないと思います。まずは、あそこに来て、エコミュージアムに寄ってみようというような、やっぱり見せ方としてもったいないなあというのは、ラムサール条約の地下水系っていう表示がちょっと少ないなと思います。最初の一番に戻りますが、秋芳中学校の生徒が、3年前から4年前に水を巡る旅なんか発表しましたよね。ああいうのも何か発表したという記録として、きちんと残していたらと思います。

あれ全国大会でしたか。当時オンラインだったかと思いますけれど。

全国大会の発表しているのは全部記録に残していますね。

文化財保護課長兼世界ジオパーク推進課長 神田 高宏

動画を撮っています。

市長 篠田 洋司

そういうのも、我々のちょっと問題の発信力をどうするかっていうのも、中から伝えるよりも外からそう入ってくるほうが伝わりやすい部分もあると思いますから、両方の面でやっていきたいと思います。

それと3番目、退職校長会の取り組み本当にありがたいなと思っておりますので、またこれも小田村先生の協力を得て、私も小田村先生からは大仏ミュージアムの際にたくさん教えていただきましたから、本当に資料とか、カリキュラムじゃないのですけれど、もうしっかりお持ちでございますので、また、協力をいただくっていうことと、やはりそれぞれ公民館にも、公民館職員にきちんと、ジオガイドというか、それができるぐらいの公民館職員がもっと出てくれたらいいなということを、教育委員会事務局にお願いしたいなと思います。はい、ありがとうございます。

続きまして、井上委員さんお願いします。

教育委員 井上 敏雄

今回、ジオパークを活用した教育と地域の振興に関しまして意見を述べる機会をいただきまして、ありがとうございます。

市長におかれましては、教育委員会がジオパークに関して取り組んでいる内容につきましては、今更ながらご説明する必要はないかと思っておりますけれども、せっかくの機会ですので、私見を述べさせていただきます。

ジオパークと対照的に世界遺産というのがあるのですけれども、それは保護を第一の目的としているのに対して、ジオパークの目的っていうのは、保護、保全した上でそれを地域振興や、教育に活用するという点にすごく大きな特徴があるかと思えます。

このうち、教育に活用する点については、教育委員会を軸に様々な取り組みを行ってかなりの成果が出てきたのではないかなと思います。

学校教育としては各学校の授業学習も充実して、伝統となりつつある取り組みもあります。

ただ個人的にはちょっと横の連携、及び縦の連携をもっと太くする必要が あるのかなというふうには思っています。

社会教育的にはジオガイドとか指導講師、また裏方として非常に積極的に、また自発的に参加される地域の方々が増えていることは大変喜ばしいことか

なと思っています。

ただそれでも、全市民がそうした熱い熱量を持っている訳ではなくて、いかに裾野を広げるかっていうのが日本ジパーク認定を目指した当初の頃からの課題かなと思っています。

これが、もう一つの目的である地域振興に活用するっていう中で、最大のネックだなと私は思っています。

多くの人に興味関心を持ってもらうということが、最終的には人材育成に繋がる一歩だと思いますし、大人が変わっていくってことは、結果、子供にも変わっていく、いい影響になるのではないかなと思っています。

よくイベントなどで一過性に盛り上がるのではなくて、地域の地質的価値を再発見して、自分が住む故郷、郷土に誇りと自信を持ってもらう。これが目的だと思いますけれども。

ただ個人的に思っているのは、秋吉台とか大嶺炭田、長登銅山跡などのメジャーなものだけがちょっと脚光を浴びるのではなくて、もっと身近なジオサイトにも光を当てないと、地域の方々が観光促進のためにジオパークやっているのであっていうのもちょっと耳にしたことがあって、そういった興味関心がどんどん薄れていってしまう要因になるのかなと思います。

ジオパークにおける地域振興というのはそうした場所に観光客が増えるイコール成功ではないと思っていますし、地域にあるジオサイトを通じてジオパークを他人ごとではなくて、自分のこととして受けとめていただきたいなと思っています。

地域の方々に、そのジオパークに興味関心を持ってもらうにはどうしたらいいかなということを、この総合教育会議があるってことを聞いて考えたのですけれども。

参考にした事例として、下関市に地域情報ポータルサイトのしもまちプラスっていうサービスが、以前からあるのですけれども、そのスマホで、スマホしもまちアプリをダウンロードしていろいろな情報発信を活用するというものなのですけれども、その中で、今月の4日からしもまちポイントというサービスを始めたっていうのが山口新聞等に載っていました。

このしもまちポイントって言うのは、地域課題解決への参加や持続可能なまちづくりに向けた前向きな行動独自のポイント制度を通じて、市が後押しするものは何かを歩み、進めようとか、調整をしていこうというような意識をポイントという形で市が応援して、市の評価を未来につなげていくために始まったようなのですけれども、これには対象施設を利用したり、イベントに参加することでポイントをためることができるようで、市民講座とか認知症カフェ、地域おこし協力隊のイベントとか、またクリーン作戦とか、いろいろな取り組みでもポイントが集まるようです。

溜めたポイントが市の魅力を再発見できる様々な特典と交換できるようで、ただポイントを稼いだり、その特典が目的の参加と思われがちなのですけれども、まずは興味を持ってもらう手段としては第一歩かなと思います。

これと似たサービスを、ジオパークの興味、関心を持っていただくのに使えないかなとちょっと考えていました。

ただ財源をどうするのだとか、協賛事業者が集まるのか課題はいろいろあるのですけれども、下関市ではふるさと納税を財源にされているみたいで、美祿市としては世界ジオパークに認定されるこのタイミングで、こういうのを検討するのがどうかなという提案に思っています。

ただ教育委員会だけではちょっと実施するのが困難なので、市長部局との連携が、是が非にも必要かなと思っていますし、スマホの所有率を考えると高齢者から子供まで参加できるのではないかなと思っています。

今までのように広報とかホームページ、情報を一方通行で配信するのではなくて、そういった情報を得たいという人をふやすためにもメリットが大きいと思いますし、ジオパークのみの関連だけではなくて、市の広報的な使い方も並行して可能と思いますので。

できないことはないかなと思っています。一番言いたいのは、そのジオパークを他人ごとじゃなくて、自分事として受けとめ行動するそのきっかけの一つになればと思っています。

ご参考になればと思い、私見を述べさせていただきました。

以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

おっしゃるとおりというか、本当に横の連携とか縦の連携っていうのは、大きくしていかなければなりません。

これとは別に、この会議の直前までJALとお話をしていたのです。

これは、ボランティアをしたい人は、たくさんいらっちゃって、JALの関係の連携企業とそういうボランティアポイントとボランティアの確保ということで何かJALの方も協力したいということですので、それできないかということをやっているのですけれど、本当おっしゃるように、こういうジオパークに関心を持って、自分事として、それぞれがそれぞれの住民の方はもうイチオシポイントってあると思うのです。

もう本当に誇りに、そういうのをなんかもっともっと、お互い本当うちは一方通行考えるのだけれど、逆にそこから発信してもらうということも非常に大事だろうと思いますし、今デジタルでInstagramとかあいうのを活用しながらとか、それを市民に還元するというのを、どうして還元するかということで、

本当に貴重なご提案、ご提言いただきましたので、ちょっと横の連携の中で、せっかくジオパークの幹事会とか本部会議とかある中で、もうまずはそれぞれのうちの横の組織がジオパークをやっぴり自分事としてとらえてもらうというのをしっかり、やっていきましょう。

まず、実際に職員にジオサイト研修を実施したのですね。

そして、いろいろ良かったという意見等と知らなかったという意見が職員ですら多いから、ましてや住民の方もなおさらと思いますので。

しもまちポイントか美祢ポイントかはわからないですけど。

だから、せっかくもう一つはその中に観光としてとらえられるかもしれないけど、サファリ、今から動物園ってどんどん動物が居なくなっていく。もう間違いなく。

せっかくあるから、生物多様性とか学ぶ凄いいいところなので、そことも何か連携できたらと思います

文化財保護課長兼世界ジオパーク推進課長 神田 高宏

井上委員さんのご意見、凄く参考になりました。

Mine秋吉台ジオパークの方でも、サイトを周遊する仕組みとして、ジオ旅クエストをやっておりました。

これは一方的な発信なのですけど、ジオサイトのデジタルスタンプラリーになります。

スタンプラリーの景品については、現在ジオパークパートナー事業者さんが約20社いらっしゃるのですけれど、そのパートナー事業者さんの商品を使っています。

イチゴを出してもらったりとか、その他の特産品を出してもらったりしていましたが、まだまだ井上さんの言われた自分たちが発信するっていうところまでいっておりませんので、凄く参考になりました。

どうも、ありがとうございます。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。本当に、もう一つ注文ですけど、ジオパーク、ジオパークの推進費の中にふるさと納税が入っています。

なぜカルスターにふるさと納税のパフレットとかがないのだろうかとか。

パートナー事業者だったらパートナー事業者もふるさと納税に参加してもらうとか、すみませんが、よろしくお願いします。

そこが伸びれば、ジオパークの活動費が伸びていくわけですからいいと思います。

ということと、文化サイトとか自然サイトの、やっぴりそこにせっかく行か

れてもがっかりしないようにしなければなりません。

なかなかこれが難しいところですが、QRコードがあれば中身を更新すればよいので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ありがとうございます。

それでは、最後に谷岡委員さん、ご意見お願ひします。

教育委員 谷岡 奈美子

ジオパーク学習についてですが、教育の面でも地域づくりの面でもとても意義のある取り組みであると感じています。

例えば、子供たちが観光客や地域の方に対して自分たちが学んだことを、日本語や英語で伝える活動は大変すばらしいアウトプットの機会になっていると思ひます。

特に英語でのコミュニケーションを実際に経験することで、国際交流へのハードルも下がり、また、他の子供たちがガイドとして活躍したり、交流する姿を見ることも、学習への意欲や刺激に繋がると思ひますので、是非もっと多くの子供たちに実践してもらいたいと考えます。

世界ジオパークとして認定された際には、ジオパークのネットワークがさらに広がり、海外の方との直接、またはオンラインなど交流の機会も増えることが期待されます。

異なる文化に触れ視野を広げるきっかけとなるそのような機会を、部分に活用できるようになるといいなと思ひます。

また、子供たちだけでなく地域の方々にとっても国内外の他の地域の方と交流する機会が広がることは大切だと感じています。

交流する中で、美祢市の魅力を自分の言葉で発信することは、地元への理解や愛着を深めて、観光振興や地域の活性化にも繋がると思ひます。

子供たちや地域の方々が、ジオを学びジオパーク活動に関わることで、将来ジオガイドとして活躍したり、地域と継続的に関わる関係人口の増加にも繋がれることを期待しています。

ジオパークの認知度も上がって、活動に参加している方は年々増えているかと思ひますが、より多くの市民の方により深く参加してもらうことが重要になるかと思ひますので、市役所各部署、地域団体の皆様とさらに連携を強めることが必要かと思ひます。

これからも、教育や国際交流、地域振興の面において、Mine秋吉台ジオパークが大きな役割を果たしていくことを期待しています。

以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

おっしゃるように、各部署ってというのは、いかに連携するかっていうか、各部署がやっぱり当事者意識をいかに持たせるかっていうことも必要だと思っておりますので、他の部署も、総合教育会議に来たらいい感じですね。

ありがとうございます。各委員さん方から貴重なご意見をいただきました。

意見をいただいただけではなくて、これを我々としてどう実現させていくかということが課題だと思いますので、そのあたり、しっかりと実施に実施して、次また実施に向けて取り組んで参りたいというふうに思っております。

よろしいですか。

他の委員さん、はい。

それでは予定された議事については2つが終了しました。

(3) その他

市長 篠田 洋司

その他に移らさせていただきたいと思います。

何かありましたら、よろしいでしょうか。

事務局から何かありましたら。

県立高校の再編整備計画の後期実施計画というのはきちんと送ってこられたじゃないですか。

あれは、委員さん方とかには、お配りしていますか。これからですか。

事務局長 千々松 雅幸

正式な物はまだお配りしていません。

市長 篠田 洋司

その他、事務局内ありませんか。

事務局長 千々松 雅幸

はい。

市長 篠田 洋司

はい、ありがとうございます。

委員さん方よろしいでしょうか。

閉会

市長 篠田 洋司

それでは、貴重なご意見いただきましたことを改めてお礼申し上げます。

また引き続き、教育行政って言うよりはより良いこの地域の子供たちのために、またお力添えをいただければというふうに思っております。

この総合教育会議に関わらず、また教育委員会会議で順次出た意見等は、またこちらの方に繋いでいただければというふうに思っております。

世界は本当に目まぐるしいスピードで変わってきますので、やはり教育委員さん方が会議の中で出された意見をまた早めに繋いでいただいて、そして、いかに早目に対応するかということも、こちらとしては必要でございますので、また、今後ともいろいろな面でご指導またお力添えを賜りますよう、お願いを申し上げます、この総合教育会議を閉じたいと思います。

本当にありがとうございました。

(午後4時40分終了)